

令和3年度 学校評価
自己評価及び学校関係者評価

| | |
|-----|-----------|
| 学校名 | 坂戸市立入西小学校 |
| 実施日 | 2022.1.22 |

○「自己評価」及び「学校関係者評価委員評価」の欄には、A～Dを記入してください。

評価 A:よくできている B:概ねできている C:あまりできていない D:できていない

○「自己評価についての評価の説明及び学校の考え」の欄には、理由及び自己評価の結果をどのように受け止めているかを記入ください。

| 領域 | NO | 評価項目 | 自己評価 | 自己評価についての評価の説明及び学校の考え | 学校関係者評価 | 学校関係者評価委員会の説明 |
|-----------|----|---|------|---|---------|--|
| 組織・運営 | 1 | 学校は、特色ある学校づくりを目指し、組織的・計画的に取り組んでいる。 | A | ・4月の春季休業から校内研修(理念研修)を重ね、目指す学校像や目指す児童像を共有し、学校を運営してきた。 ・0.5時間授業の実施により、児童・教職員の放課後の時間を確保した。 ・一役一人制により各自が責任をもって役割に取り組めた。 | A | ・校長のイニシアティブのもと、「学び合う」という特色に力を注いでいた。 ・目指す学校像、児童像が明確で職員が共有できている。 ・0.5時間授業など大胆な取組が組織的に行っている。 ・一役一人で各職員が責任を持って職務に臨んでいる。 |
| | 2 | 学校は、災害、事故やトラブルに対して、組織的に迅速に対応している。 | A | ・報告・連絡・相談の徹底を図り、管理職を中心とした事故対応や事故の未然防止に努めた。 ・近隣の不審者情報はマメールを使って保護者地域に情報発信し、協働して児童を守る体制作りを行った。 | A | ・マメールの活用によって近隣の情報が伝わり、保護者や地域と協働して児童を見守れている。 ・コロナ禍という難しい状況の中、迅速な対応ができるよう職員内での協働意識が高い。 ・大きい組織でありながら情報伝達や決断が速い。 |
| | 3 | 学校は、働き方改革を意識して、職員の勤務体制の改善を図っている。(共通項目) | A | ・日課の変更、会議の精選、組織の解体と設立、休暇の取得増進を行い、超過時間の激減が図れた。 ・無限にある仕事に対して、個々に限度を定めているため、個人差の激しさが増している。 | A | ・会議の持ち方への工夫がなされている。 ・ICTを効果的につかい、勤務の負担を減らせている。 ・ノー残業デーの設定が必要である。 |
| 教育課程・学習 | 4 | 教員は、学力向上に向け、児童生徒にわかりやすく、工夫した授業をしている。(市共通項目) | B | ・全ての児童が45分間学び続ける授業の創造を目指して、校内研修を進めてきた。 ・毎年の異動者が20名を超えるため、教師の意識に差があり、浸透までに時間を要する。 | B | ・日頃からきめ細やかな指導を職員が展開している。 ・よりよい授業の創造への努力を常に行っている。 ・臨時的任用教員に対する研修の充実が必要である。 ・毎年の大人数の異動者がもう少し減るとよい。 |
| | 5 | 教員は、豊かな心を育む授業の充実を図っている。 | B | ・縦割り活動を盛んに行い、異学年児童の人間関係を通じた成長があった。 ・体験活動を十分に実施できた学年と、机上の学習が多くなった学年があった。 ・道徳授業の確実な実施と授業の充実を図った。 | B | ・登下校での様子にも縦割り活動の成果がみられる。 ・下級生から上級生への積極的な関わりが増えている。 ・意図的な異学年交流が児童の成長につながっている。 ・コロナ禍で実施方法の工夫が必要である。 |
| | 6 | 児童生徒は、落ち着いた態度で生活し、授業に取り組んでいる。(市共通項目) | B | ・校内では、進んで挨拶をする児童が多いが、人間関係の深さや児童個々の特性によって差が大きい。 ・「聴く」ことを重視した授業を展開し、尊重し合う関係作りにつとめてきた。 | B | ・在籍人数が多い中、個別の対応が丁寧になされている。 ・児童が多様な考えを共有する力を育てている。 ・児童が落ち着いた授業に臨んでいる様子が見られる。 ・ICTとコミュニケーション能力の向上の関係が課題である。 |
| 資質の向上 | 7 | 学校は、体罰や交通事故等の教職員事故や不祥事根絶のために意欲的に取り組んでいる。(市共通項目) | A | ・定期の倫理確立委員により、計画的に不祥事防止のための研修を実施した。 ・季節、行事、長期休業等の前後において、教職員が情報提供を行った。 | A | ・教育に対する真摯な姿勢が不祥事防止につながる。 ・組織的・計画的な取組により成果がある。 ・児童に自分の命は自分で守る意識が育っている。 ・定期的な倫理確立委員会が今後も必要である。 |
| | 8 | 本校の教員は、児童生徒一人一人を認め大切に接している。 | B | ・「どうしたの？」から始める生徒指導を多くの教職員が実践してきた。 ・時々、感情が抑えられずに、言葉が荒くなることもあった。 ・相談室、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、教育センター等と連携し、チームで子供に寄り添った。 | B | ・全ての教職員にカウンセリングマインドが必須である。 ・問いから始まる生徒指導は自尊感情を高めている。 ・教職員の疲労感や多忙感の蓄積が課題である。 ・児童・保護者と教職員の認識の差が溝となる傾向がある。 |
| 学習環境 | 9 | 学校は、特別支援教育体制の充実を図っている。 | A | ・教育のユニバーサルデザイン化が図れるように、年度初めや夏休みに職員研修を実施した。 ・担任を中心に特別支援学級在籍児童が気持ちよく通常学級と交流し、学べる環境を整えた。 ・就学支援に関する情報共有を行い、他機関へと繋いだ。 | A | ・校内研修の充実や他機関との連携がなされている。 ・特別支援学級の児童が生き生きと学習している。 ・教職員の特別支援教育に対する理解をさらに深めていくことが重要である。 ・通常学級との交流による学びの保障を今後も継続していく。 |
| | 10 | 学校は、安心安全で機能的な教育環境整備に努めている。 | B | ・人数に見合わない環境を、工夫して活用してきた。 ・清掃時間、清掃回数を減らし、より集中して清掃に取り組めるようにした。 ・毎月安全点検を欠かさず行い、改善を図ってきた。 | B | ・児童が過ごしやすい環境整備がなされている。 ・消灯忘れが多くみられたため、改善が必要である。 ・人数に対する特別教室の数が少ない。 ・コロナ禍における教室の座席配置の工夫が必要である。 |
| 家庭・地域との連携 | 11 | 学校は開かれた学校づくりを目指し、家庭・地域社会に積極的に情報提供を行っている。(市共通項目) | A | ・ホームページにおいて、保護者にとって有益な情報を発信できるよう努めた。 ・手探りではあったが、コロナ禍においても行事参観や授業参観、オンライン授業参観を行ってきた。 ・マメールを使い、地域・家庭への情報発信を行った。 | A | ・コロナ禍において工夫して実践がなされている。 ・情報発信が随時適切に行われている。 ・オンライン授業参観等の工夫が実践されている。 |
| | 12 | 学校は、積極的に地域の人材を教育活動に活用し、家庭・地域と連携し子どもの問題解決を図っている。 | A | ・学校応援団を目的から見直し、組織を再編成するとともに、持続可能なシステムを構築した。 ・規模は縮小させながらではあるが、PTA活動を工夫しながら実施してきた。 ・学校の諸問題は関係する機関と連携しながら、問題解決に向けて取り組んできた。 | A | ・学校応援団が自立して活動できている。 ・女子栄養大学の学生の活用が適切に図れていた。 ・児童に対して外部人材を活用した教育活動がよい刺激をあたえている。 ・地域の中の学校であるために、今後も工夫が必要である。 |
| 小中一貫教育 | 13 | 学校は、小中一貫教育の視点にたった教育活動を推進している。(市共通項目) | C | ・スイッチオフ日を若宮中学校の定期テストを中心に設定し、共通理解のもと取り組んできた。 ・小中連絡会は規模を縮小して実施した。 ・小中教職員同士の情報交換の機会を設けておらず、小中の目指す子供像のずれに課題がある。 | B | ・オンラインを活用した小中連携に取り組めるとよい。 ・9年間を見通し、児童が大きく成長できるよう計画的な小中一貫教育が必要である。 ・なぜ今小中一貫教育が必要なのかを、教職員で共有し、一丸となって取り組んでいくことが重要である。 |